

平成28年度

熊本大学理学部同窓会報

印刷・発行 平成29年5月

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学 理学部同窓会

印刷 小野高速印刷(株)

会報発行に当たって－同窓会会長活動

阪神・淡路大震災から22年、東北地方太平洋沖地震から6年、熊本地震が起こってからは早1年が過ぎようとしています。理学部同窓生の皆様方におかれましてはこれらの地震災害に直接あるいは間接的に遭遇され、その後、復旧・復興に向けて全力で対応された、あるいは対応されている同窓生も多数おられることであろうと拝察いたします。皆様方におかれましてはその後、如何お過ごしでしょうか。折しも、平成27年度理学部同窓会報の原稿が集まり印刷に取り掛かろうとしている時、凄まじい熊本地震に見舞われ、前号の発行は半年も遅れることとなりました。また、平成28年度は第27号理学部同窓会名簿の出版年にも当たっており、同様に半年の遅延を余儀なくされました。熊本地震の復興では理学部ゆかりの旧第五高等学校化学実験場（国指定重要文化財、化学遺産）の復旧支援を同窓生の皆様方にお願いましたところ、たくさんの方々からご寄附を賜りまして誠にありがとうございます（継続中）。平成28年度に集まりました寄附金は全額、熊本大学基金「五高記念館周辺環境整備事業（化学実験場復旧事業）」に寄附致しました（熊大通信、vol.64, p30, KUMADAI TOPICS参照; <http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kouhou/kouhoushi/kumatu/vol-64>）。赤レンガ造りの旧第五高等学校赤門、本館並びに化学実験場、工学部研究資料館の修復並びに耐震補強工事は平成29年度より5ヶ年をかけて行われる予定です。また、地震で使用不能となった工学部1号館（鉄筋6階建）は取り壊し、新築に向けて工事がスタートしました。

さて、平成28年4月4日（月）の入学式（理学部入学者194名）、平成29年3月25日（土）の卒業式（理学士183名、修士理学80名、博士理学8名）に理学部同窓会会長として出席し、平成28年度の会長としての仕事を熟しました。この間、地震直後に第11回熊本大学基金運営会議が5月17日（火）に開催され、地震復興基金が設立されました。7月16日（土）には第3回熊本大学九州連合同窓会（ホテル日航熊本）が催され、熊本在住の理学部同窓会の皆様方には地震後ではありましたが、お

世話いただきました。安田宏正 九州連合同窓会会長（昭和42年卒・法文）の挨拶、原田信志学長による基調講演「平成28年熊本地震 熊本大学の震災復興」に続いて、小野友道氏（昭和41年卒・医）による特別講演「漱石来熊120年－医者の中で「我輩は猫である」を読んでみる」では漱石の意外な身体的特徴を知ることができました。11月12日（土）には平成28年度熊本大学卒業生表彰式に続いてホームカミングデーが挙行されました。理学部からは佐々本一美氏（株同仁化学研究所技術顧問、昭和49年卒）が卒業生表彰を受けられました。同氏の企業における化学を通じた長年の研究・商品化、若手企業研究者の育成、理学部非常勤講師としてキャリア科目「理学概論」を通じた理学部学生の啓発等の功績が認められ、今回の栄えある授賞となりました。12月3日（土）には第5回熊本大学関西連合同窓会（太閤園）が開催され、本島昭男 関西連合同窓会会長（昭和43年卒・法文）の挨拶、原田信志学長による基調講演「平成28年熊本地震 被害状況と復興に向けた対応状況」に続いて、松岡浩史 文学部准教授による「漱石とシェイクスピア」と題した特別講演があり、漱石が英国留学していた当時の状況を伺い知ることができました。その後の懇親会には関西地区理学部同窓生15名の参加があり、親交と連帯を深めました。

平成28年度の活動を振り返り、新たに理学部同窓会に加わりました理学士並びに大学院修了者271名の新人同窓生をどうぞ温かく迎え入れていただきますと共に、これからも同窓生の皆様方の絆をより一層深め、理学部同窓会の存在価値を高めるべく活動して参りますので、前年度にも増してご指導とご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

平成29年3月吉日

熊本大学大学院先端科学研究部
基礎科学部門化学分野教授
西野 宏
化学科第27回（昭和54年卒）

教室だより

数 学 教 室

寒さも次第に弱まり、春の陽気が待ち遠しく感じられます。数学教室同窓会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。同窓会の皆様には数学教室の近況についてお知らせします。

初めに先生方の御異動について御報告します。今年度10月より北別府悠（きたべっぷゆう）先生が赴任されました。先生はリーマン幾何を専攻されており、京都大学のポストドクターを経て熊本大学へ来られました。先生は学生と共にスポーツ会を催すなど、勉学面も含め多様な部分で、学生からの信頼や人望を集めております。新進気鋭の教員が加わり、これからの数学教室はさらに活気に満ちた教育研究機関になることと思います。

本年度の数学教室の在籍人数は3年生35名、4年生41名、博士前期課程1年生6名、博士前期課程2年生11名、博士後期課程は3名です。

今年度はじめの熊本地震により、私たちは甚大な被害を受けました。理学部棟3・4号館や自然科学研究科研究棟の壁に亀裂が走り使用するには大変危険な状態となったため、立ち入りが禁じられました。しかし、復興が進むにつれて環境が整

い始めてからは、地震という逆境をバネに数学に励みました。大学院生は先生方の御指導のもとで専門的な数学を学び、より深い知識を探求するために、3年生は学習室で仲間たちと議論することで互いに切磋琢磨しあい、数学への関心を深めて参りました。4年生も毎週のセミナーの準備をしたり、資格習得を目標に自主ゼミを開いたり、数学だけではなく将来の進路実現のために、夜遅くまで大学に居残りひたむきに勉学に勤しみました。その成果もあってか、卒業後の進路は教員をはじめ公務員、一般企業、大学院博士前期課程への進学など、多岐にわたりました。

今後も予期せぬ出来事が起こり得るとは思いますが、それらに負けぬよう日々努力して参ります。同窓会の皆様には数学教室、または理学部全体の更なる発展のために、御指導並びに御鞭撻の程をよろしくお願い致します。最後になりますが、同窓会の皆様の御健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

自然科学研究科博士課程前期1年 前田 昂星

物 理 教 室

厳しかった寒気も少しずつ緩みはじめ、春の訪れが待ち遠しい季節となりましたが、物理科学同窓会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。同窓会の皆様に物理科学講座の近況についてご報告申し

上げます。

本年度、物理科学講座の在籍人数は、3年生35名、4年生38名、博士前期課程42名、博士後期課程9名です（H29. 2. 17）。来年度は博士前期課

程に39名、博士後期課程に5名の入学が予定されています。

平成28年11月には、外部の研究者を招いた国際シンポジウムISKSR3が開催されました。本講座の赤井一郎先生をはじめ、学生たちも精力的に発表しました。平成29年2月には、卒業論文発表会、修士論文発表会がありました。発表者一人ひとりが、日々の創意工夫と試行錯誤を積み重ねてきた努力の結晶ともいべき研究成果を、熱意をもって発表しました。

研究活動以外では、平成28年4月には3年生歓迎会があり、3年生は先輩や先生方と語り合い研究生活とはどういったものなのかを知り、期待に胸を膨らませているようでした。同年11月には「夢科学探検」が催され、多くの研究室が出展し、地域の方々との親睦を深めることができました。

本年は、平成28年熊本地震が発生しました。本講座の各研究室においても建物や実験器具の破損など大きな被害に見舞われました。また、8月に予定されていたオープンキャンパスは、この地震の影響で中止となってしまいました。しかし、互いに協力し助け合うことで震災前とほとんど変わらぬ日常を取り戻すことができました。全国の同窓会の皆様には、多大なるご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。このつらい経験を乗り越えて、私たちはこれからも日々精進していく所存です。今後とも同窓会の皆様にはご指導、ご鞭達の程よろしくお願い致します。最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

自然科学研究科前期課程1年 内田 祐一

化 学 教 室

日を追うごとに春が深まり、暖かな日差しが心地よい季節となりましたが、熊本大学理学部化学科、物質化学科、環境理学科、化学コースの同窓生の方々をはじめ、理学部同窓生の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。皆様に理学部化学教室の近況についてご報告申し上げます。

初めに先生方の御異動について報告いたします。平成29年3月をもちまして、松本尚英教授、小川芳弘教授の両先生がご定年を迎えられます。松本先生は平成9年より20年間に亘り理学部で化学、特に無機化学の分野で活躍され、素晴らしいご功績を挙げられました。また、小川先生は平成9年の理学部改組に伴い、旧教養部から理学部へ

移籍されました。以来、20年間に亘り教育・研究と大学運営に尽力され、高分子化学に関する基礎研究ではご功績を挙げられました。両先生とも本当にありがとうございました。

続いて学生の状況について報告いたします。現在、化学教室は新たに学部3年生39名を迎え、4年生43名、大学院博士前期課程67名、博士後期課程17名が在籍しています。平成28年4月に発生した熊本地震のため一時期は研究活動が困難な状況下にありました。しかし、先生方のご尽力と皆様方からの温かいご支援を賜りまして、現在ではほぼ復旧し、研究に精進している次第です。10月には学部3年生の歓迎会を兼ね、例年同様ソフト

ボール大会とバーベキューパーティーを開催することができました。先生方にもご参加いただき、研究室の枠を超えて化学教室全体の親睦がより一層深まったように思います。平成29年2月1日には大学院博士後期課程学生に対する博士論文審査会、2月10日には大学院博士課程前期2年生による修士論文研究審査会が、1週間後の2月17日には学部4年生による卒業研究発表会が行われ、先生、学生問わず活発な議論が繰り広げられました。中でも、卒業生が自らの研究について熱く語

る姿が非常に印象的で、卒業後の活躍を予感させる発表会となりました。私共在校生も再び気を引き締めなおし、日々研究に励んでいく所存でございます。

今後とも同窓会の皆様には理学部の更なる発展のため、ご指導並びにご助言を頂ければ幸いです。最後になりますが、皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。

自然科学研究科博士前期課程1年 月足 麻美

地球環境科学教室

はじめに、4月14日、16日に発生した熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、熊本大学理学部地学科・地球科学科・理学科地球環境プログラム同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。同窓会の皆様に、地球環境科学講座の近況をお知らせ致します。

まず、自然科学研究科の近況をご報告いたしますと、平成28年4月に、教育組織と教員組織が一体となって運営されてきた大学院自然科学研究科を改組し、教育組織としての大学院自然科学研究科の体制を維持した上で、教員組織としての大学院先端科学研究部が発足しました。

続いて学生の状況についてご報告致します。現在当教室では、3年生28名、4年生24名が、大学院生は留学生・社会人を含めて修士課程20名、博士課程12名の学生が在籍しております。6月に

は3年生を歓迎する新歓、11月にはハンマー祭（ボーリング大会）が行われ、学科全体の親睦を深めることができました。2月に行われた卒論・修論発表会では、日夜研究に励みこれまで積み重ねてきた成果が発表され、先生方や学生との専門を問わず熱い議論が交わされました。

また、本年度は39名の学生（うち修士10名、博士5名）が卒業・修了する予定となっております。学部卒業生のうち19名が就職し、5名が大学院に進学します。就職と進学とそれぞれ進む道は異なりますが、これまで培った経験や知識はこれからの私たちを支えてくれると思っています。まだまだ未熟な面もありますが、今後も様々な面でご指導いただければ幸いです。

最後になりましたが、皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

自然科学研究科博士前期課程2年 富松 由希



松本尚英先生、小川芳弘先生退職慰労会（平成29年3月6日）

生 物 教 室

各地で花の便りが聞かれる頃となりました。生物教室同窓会の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。同窓会の皆様に生物教室の近況についてご報告申し上げます。生物教室では、平成28年12月をもちまして技術職員として長年勤めておられました佐藤博さんが退職されました。佐藤さんには、研究のサポートだけではなく、様々な面で生物教室にご尽力いただきました。次に、学生の状況についてご報告いたします。平成28年度の生物教室では3年生43名を迎え、また、博士前期課程1年生22人が入学し、新たな仲間の加わりに喜びを感じております。そして、4年生67名および博士前期課程2年14名が新たな学年としてスタートいたしました。

7月にソフトバレー大会、及び歓迎会のイベントを開催し、このイベントを通して研究室の枠を超えた生物教室全体の絆を深めることができました。また、11月の学園祭では子供から大人まで科学を身近に楽しんでもらうための「夢科学探究」と題したイベントにも、多くの研究室が参加し、

盛況を得ました。科学の面白さをより体験してもらうためのアイデアを出し合い、試行錯誤し、イベントを盛り上げました。12月には3年生の研究室配属が決定いたしました。新たな仲間が加わり、さらに研究活動に精を入れて取り組むことができました。そして2月9、10日は4年生の卒業論文発表会、2月16日は博士前期課程2年生の修士論文発表会が行われました。この発表会では、卒論生、修論生だけでなく、先生方や学生全員が熱心に質問し、活発に議論する姿勢がみられ、この先の生物教室の更なる発展が期待できるとも充実した会となりました。今後も研究活動に励み、さらなる成長に向け日々精進していく所存です。

今後とも同窓会の皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈りいたします。

自然科学研究科博士前期課程1年 鈴木れいら

平成27年度 会計報告

平成27年6月1日～平成28年12月19日

【平成26年度繰越】 ￥17,536,999

【平成27年度繰越】 ￥15,512,346

(化学実験場復旧寄附金 ￥159,000 含む)

【収入】

会費納入	￥2,314,000
理学部同窓会への寄付	￥120,000
化学実験場復旧寄附金	￥1,949,000
預貯金利子	￥34
小 計	￥4,383,034

【支出】

平成27～28年度学部協力金	￥850,000
平成27年度同窓会報発行	￥802,189
平成27～28年度熊本大学同窓会連合会会費	￥120,000
同窓会名簿第27号発行	￥2,641,861
卒業生表彰お祝い金	￥40,000
同窓会長活動費	￥62,140
文具・作業謝礼	￥9,834
振込手数料・払込書印字代	￥91,663
化学実験場復旧寄附金	￥1,790,000
小 計	￥6,407,687

●●● 寄 付 ●●●

平成27年8月 黒澤 和 様
(化学講座教授, S.42～ H.14)

平成28年12月 紙谷正夫 様
(物理講座教授, S.37～ H.10)



平成28年度 理学部卒業式 (平成29年3月25日)

あ と が き

平成28年4月14日、16日に発生した「平成28年熊本地震」から、早いもので1年が経ちました。地震直後は、これからの教育は、研究はどうなるのかと大変心配しましたが、大学ならびに卒業生の皆様方からの力強いご支援により、この3月、無事、卒業生を送り出すことができました。深く感謝いたします。そして4月には、満開の桜の下、203名の新生が新たに熊本大学理学部へと入学してまいりました。建物等の復旧はこれから本格化しますが、今後も皆様方の暖かいご支援を賜りながら、これまで以上に活気溢れる熊本大学理学部の復旧に向けて、心を新たにすところ中です。

平成28年度の理学部同窓会の活動については、西野 宏理学部同窓会長より、詳しくご報告がされておりますが、嬉しいお知らせとしては、佐々本一美氏(株式会社同仁化学研究所技術顧問)が、平成28年度熊本大学卒業生表彰を受賞されました。卒業生表彰制度は、熊本大学の発展や社会的評価を高めることに顕著な業績のあった卒業生を同窓会長が推薦し、ホームカミングデーにおいて学長が表彰する制度です。毎年9月に各同窓会長が、学長に候補者を推薦

いたしますので、ふさわしい方がお近くにいらっしゃる場合には早めにお知らせくださると幸いです。

理学部同窓会における活動に加え、平成28年度には、7月16日(土)に第3回九州連合同窓会(熊本)が、12月3日(土)に第5回関西連合同窓会(大阪)が開催され、数多くの同窓生の方々にご参集いただき、盛会であったことをお慶び申し上げます。平成29年度には、6月17日(土)に第4回九州連合同窓会(宮崎)が、12月2日(土)に第7回東京連合同窓会(東京)が開催されます。多くの会員の皆様にご出席いただければと思います。よろしく願いいたします。また平成29年度のホームカミングデーは、11月5日(日)に開催されます。案内状は、熊本大学卒業の一部の卒業年の方にしか送られませんが、卒業生はどなたでも参加できます。詳細な日程ならびに問合せは、<熊本大学ホームページ>同窓会をご覧ください。

何かと不行届の点多々あるかと思いますが、会員の皆様のお役に立てるよう努力いたします。何卒、よろしく願いいたします。

庶務担当 松田博貴